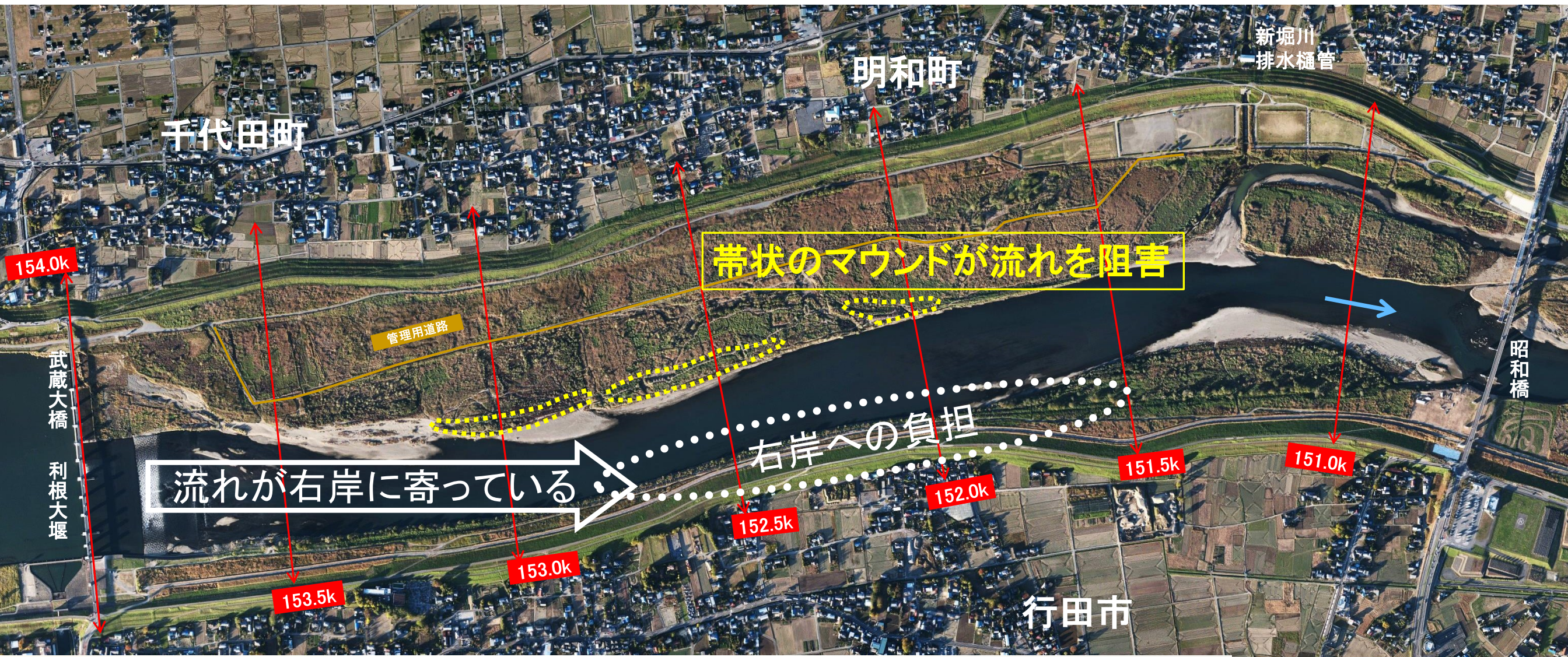


基本方針(案)について

平成27年10月20日
利根川上流河川事務所

＜現状の課題①＞流下方向の右岸への偏り

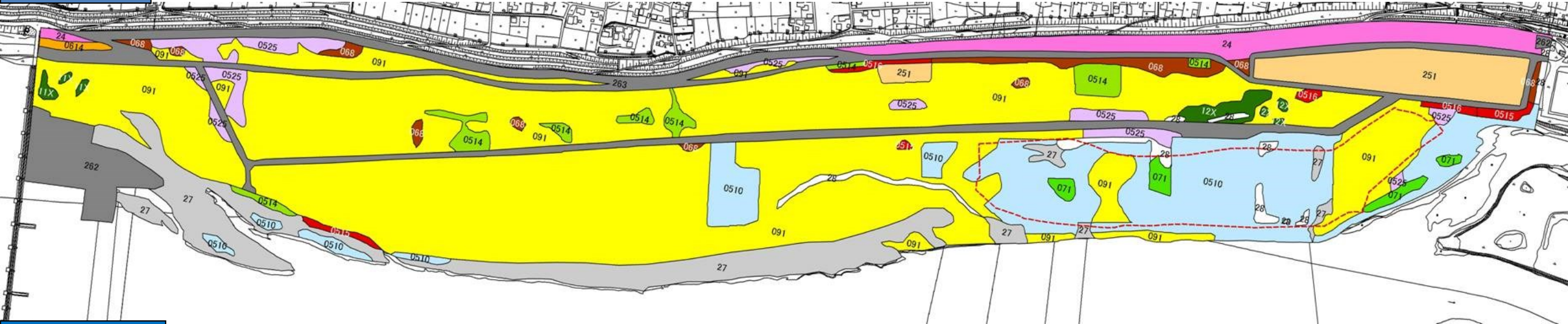


水際に高さ3～5m
のマウンドが帯状に
続いている
(図・黄色点線部分)
(152.5k付近対岸)

※3～5mのマウンド

<現状における課題②> 乾燥化・樹林化の進行・外来種の侵入

平成16年度



平成22年度



群落コード	群落名	基本分類
0514	メヒシバーエノコログサ群落	在来種
0523	オヒシバーアキメヒシバ群集	
0525	カナムグラ群落	
059	ヤナギタデ群落	
0610	ヤブガラシ群落	
0612	ギシギシ・ナガバギシギシ群集	
0614	カゼクサーオオバコ群集	
064	ヨモギ・メドハギ群落	
071	ヨシ群落	
081	ツルヨシ群集	
091	オギ群落	
1010	セリークサヨシ群集	
1042	チガヤ群落	
105	ガマ群落	
11X	ヤナギ低木林	
12X	ヤナギ高木林	
156	クコ群落	
1315	クズ群落	

群落コード	群落名	基本分類
0510	オオイヌタデ・オオクサキビ群落	外来種
0513	コセンダングサ群落	
0515	ヒメムカシヨモギ・オオアレチノギク群落	
0516	オオブタクサ群落	
0524	アレチウリ群落	
068	セイタカアワダチソウ群落	
1020	キシウスズメノヒエ群落	
1021	イ群落(コゴメイ優占)	
1038	シナダレスズメガヤ群落	自然裸地
27	自然裸地	
28	開放水面	開放水面
24	人工草地(カモガヤ・オニウシノケサ・ネズミギ・ホソムギ)	
1028	セイバンモロコシ群落	人工草地
251	公園・グラウンド	
253	人工裸地	グラウンドなど
262	コンクリート構造物	
263	道路	

- オギ群落が減少し、カナムグラ群落などの乾燥した荒れ地でも生育可能な植生が発達、シナダレスズメガヤ群落などの外来種の侵入も目立ってきている。
- ヤナギ林など、一部では樹林地化が進んでいる。

<現状の課題③> オフロード車・バイクの侵入による環境の改変



利根大堰下流域における治水と環境の一体的な対策 (基本方針案)

● 水路掘削による車両侵入抑止対策

- ・ 左岸管理用道路の南側に、新規水路を掘削し、オフロード車やバイクの侵入を抑止する。
- ・ 利根大堰からの水を利用し、常時水が流れる構造にして湿地再生に活用する。

● 右岸の河岸防護のための治水対策

- ・ 利根川の水の流れが右岸側に片寄っているため、流れを多少左岸側に寄せる。
- ・ 左岸河岸部の流れの障害となる帯状マウンドを除去する。

利根大堰左岸側ゲートの操作・運用の調整

掘削水路

管理用道路

流れの障害となるマウンドの除去

昭和橋

● たまり池の再生【中流域ゾーン】

- ・ 希少動植物をはじめとした生物多様性の主要拠点であった「たまり池」の再生や、掘削による河岸ワンドの創出を図る。
- ・ 地下水位が高い箇所の掘削等により、ニホンアカガエル等の湧水性や止水性の動植物相の再生を目標とする。

● 砂礫河原の再生【上流域ゾーン】

- ・ 地盤を切下げるとともに、利根大堰のゲート運用や掘削水路からのフラッシュ効果に基づく砂礫河原の再生を検討する。
- ・ かつて生息が見られたコアジサシ・シロチドリ・カワラバッタ等の砂礫性動植物の分布再生を目標とする。

● コウノトリの生息に適した湿地の整備【下流域ゾーン】

- ・ 関東地域の広域エコ・ネットの指標であり、水辺のシンボルでもあるコウノトリの採餌条件を有した浅水域の湿地を整備する。
- ・ 地盤の切り下げや掘削水路からの流水等を活用し、コウノトリの餌となる多様な水生動物が生息可能となり、四季に応じた水深の変化に対応する湿地の創出を図る。

今後対策するにあたっての環境上の要件

1. 生物多様性の重要拠点であった「たまり池」の再生

利根大堰下流左岸地区において、最も生物多様性が高く河川環境保全上の重要性が高かった「たまり池」が壊滅的なダメージを受けている現状を踏まえ、旧来の湧水性止水池の環境条件と動植物相をとり戻すことを目標とした『湿地再生』を具体化すること。

2. 水路掘削による車両の侵入抑止と環境管理の水源確保

「たまり池」をはじめ利根大堰下流左岸地区の広域的な自然破壊の最も大きな要因となっているモトクロスやオフロード車の侵入を効果的に抑止するために、常時流水が確保された新規水路を掘削すること。また、この水路の水を効果的に用いて、砂礫河原や湿地整備の維持管理を図ること。

3. 水辺環境のシンボルとなるコウノトリの生息可能な湿地の整備

関東地域の利根川・江戸川・荒川を中心に、コウノトリ・トキを指標としたエコロジカル・ネットワークの形成が推進されていることから、利根大堰下流左岸地区においても、コウノトリの飛来可能な生息条件を備えた『湿地再生』に取り組むこと。

今後対策するにあたっての治水上の要件

1. 左岸高水敷の掘削推進による右岸の河岸防護

利根大堰下流の流向の右岸側への片寄りにより、右岸の河岸防護ラインに影響を及ぼしていることから、左岸高水敷の掘削による『湿地再生』を兼ねた切り下げを計画的に実施し、流向を中心に寄せる必要がある。

2. 左岸水際部の帯状マウンドの除去

右岸河岸防護ラインへの負担軽減のため、左岸水際に現存する帯状マウンドの掘削除去を進める必要がある。